

目的

想定されたモデルにおいて、模擬コミュニティで議論し、これに対応するコミュニティ対応計画を作成し、発表するところ

そして積極的な参画により、自ら屋内退避について学ぶこと

屋内退避の指示がでたときのために

みんなで屋内退避の計画を作ろう！



高校生・
大学生

社会人

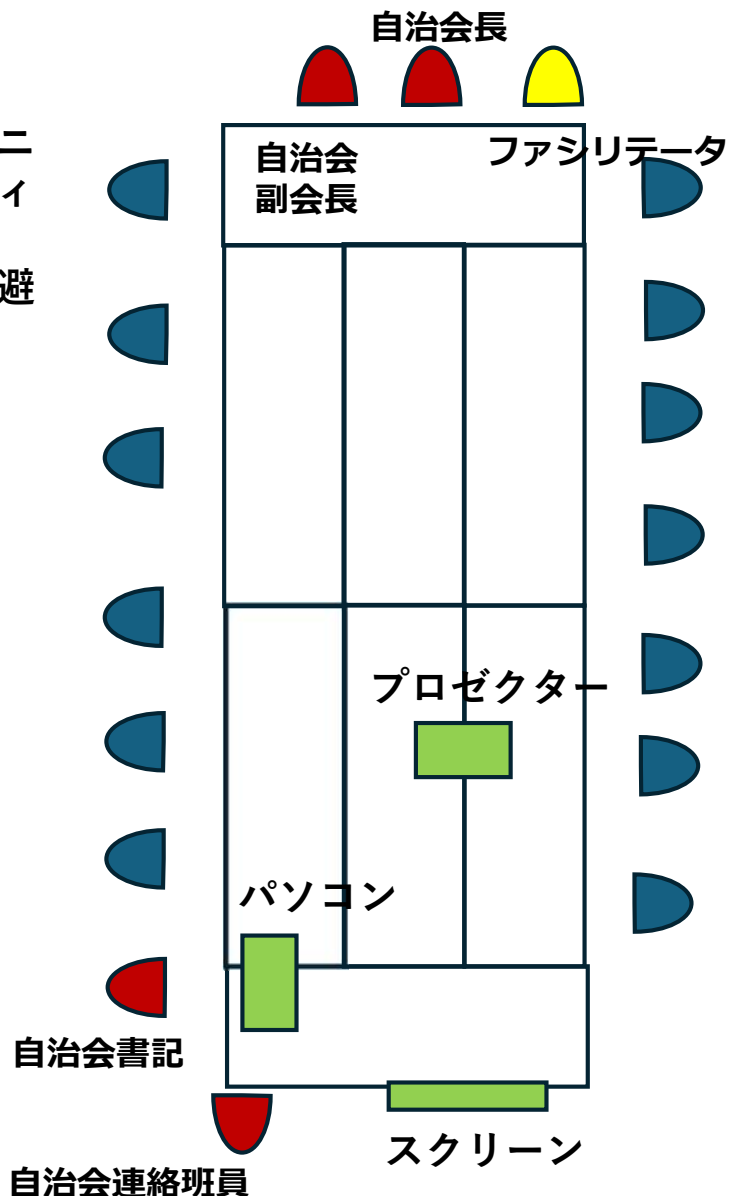
高齢者

外国人

お願い（禁止事項）

自分の所属や肩書を言うこと ❌

他人の意見を否定すること ❌



コミュニティ対応計画の設問に対する回答選択項目

設問1:コミュニティ内の連絡をどうしますか？	設問2:コミュニティメンバーの安否確認をどうしますか？	設問3:安否が確認できない人の対応をどうしますか？	設問4:生活物資や医薬品などが不足する場合、どうしますか？	設問5:原子力緊急事態宣言が解除された場合に備えて何をしますか？
隣近所で連絡しあう	隣近所で実施する	連絡を待つ	各自で実施	防犯対策
防災行政無線を使う	災害伝言ダイヤル等各家庭で実施	各家庭で実施	コミュニティで融通	公共施設の点検、修理
回覧版を使う	個別訪問で実施	コミュニティで手分けして搜索	コミュニティで分担して調達	罹災証明書等の手続き
定期的な会合を持つ	自助努力(実施しない)	自助努力(実施しない)	支援がくるまで待つ	コミュニティ復旧計画の作成
動けないので何もしない	行政にエリアメール等依頼	行政等に搜索を依頼する	行政等に支援を要請する	行政等に確認する
その他	その他	その他	その他	その他

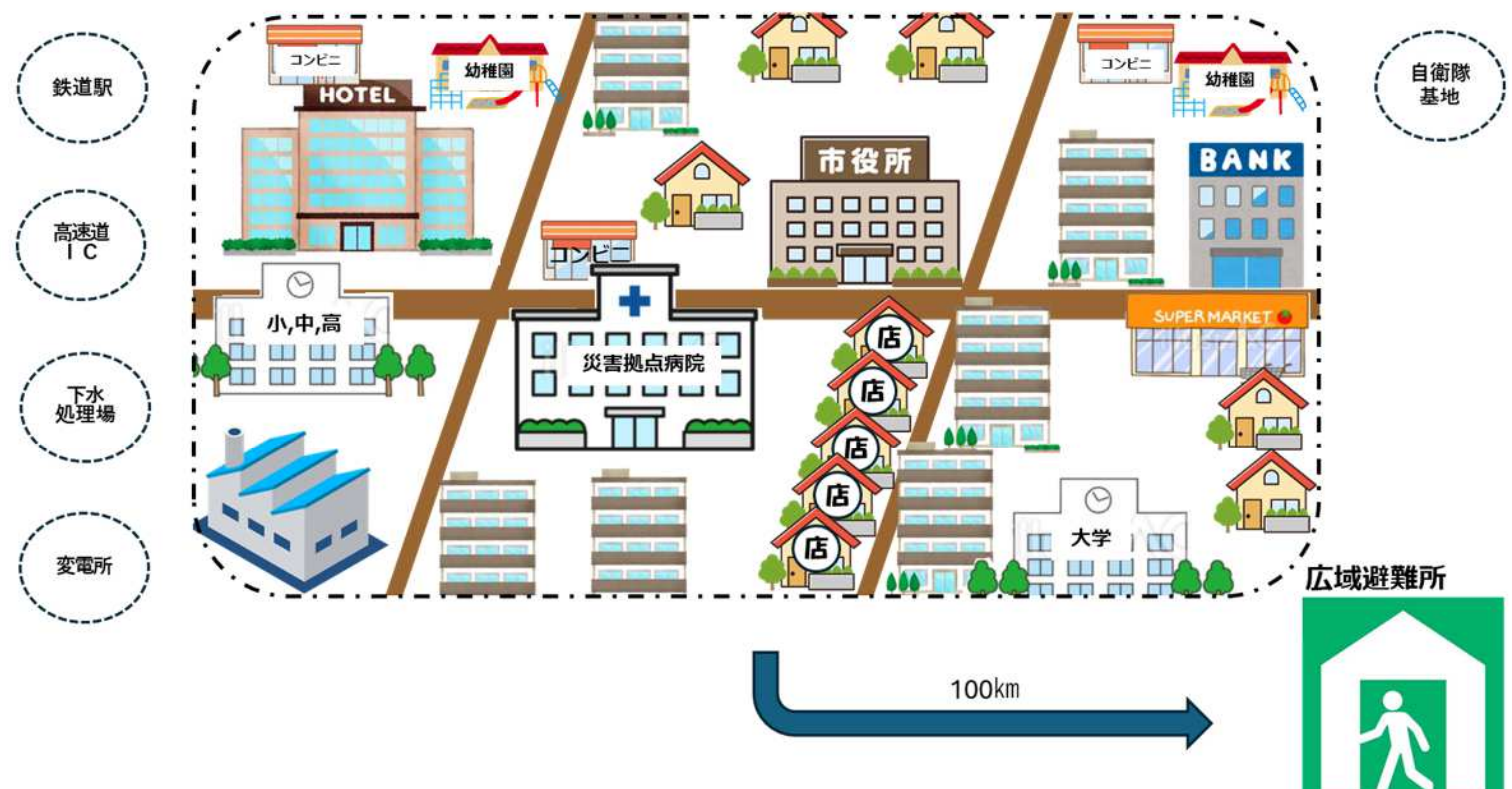
3 1 1 特別セミナー グループワーク				作成	2月28日(土)	○	時	○	分
原子力災害 コミュニティ対応計画書									
作成グループ	グループ	固有名称					区長	○○	
							副区長	○○	
初期またはグループ選択したコミュニティモデル	中心街	▼	初期またはグループ選択したケースモデル	感染蔓延 ▼					
前提	グループ選択	意見・理由等 1				意見・理由等 2			
このケースモデルで指示どおり屋内退避しますか、それとも自主避難しますか？	屋内退避 ▼	全員が屋内退避を選択							
設問 1	グループ選択	意見・理由等 1				意見・理由等 2			
コミュニティ内の連絡をどうしますか？	防災行政無線を使う ▼	放射線リスクがあるので、外を動かないほうが良いため							
質問 2	グループ選択	意見・理由等 1				意見・理由等 2			
コミュニティメンバーの安否確認をどうしますか？	行政にエリアメール等依頼 ▼	放射線リスクがあるなか、外を動かないほうが良いため				放射線リスクは小さいので個別訪問で実施すべきという意見もあった			
質問 3	グループ選択	意見・理由等 1				意見・理由等 2			
安否が確認できない人の対応をどうしますか？	自助努力(実施しない) ▼	放射線リスクがあるなか、外を動かないほうが良いため							
設問 4	グループ選択	意見・理由等 1				意見・理由等 2			
生活物資や医薬品などが不足する場合、どうしますか？	コミュニティで分担して調達 ▼	支援がくるまで待つという意見も多かったが、自分たちで何とかしようという結論となった。							
設問 5	グループ選択	意見・理由等 1				意見・理由等 2			
原子力緊急事態宣言が解除された場合に備えて何をしますか	コミュニティ復旧計画の作成 ▼	これぐらい何とかしようという意見が多かった				復旧計画がどんなものかわからないので賛成しないという人もいた			

- ・ 中心街、住宅街、農村部、漁村部、外国人多数および高齢者多数の6モデルとする。
- ・ それぞれ、12ワークグループに1モデルづつ初期条件として与えるが、1モデルが終わった場合等、モデルを変更できるものとする。
- ・ このモデルは50～200世帯、100人～500人規模の多様性あるコミュニティであり、それぞれに妊婦、幼児、小学生、中学生、高校生、大学生生、社会人、専業主婦、無職高齢者、外国人、要支援者等で構成する。

区分	モデル 1	モデル 2	モデル 3	モデル 4	モデル 5	モデル 6
名称	中心街	住宅街	農村部	漁村部	外国人多数	高齢者多数
世帯・人口	200世帯、500人	100世帯、250人	50世帯、125人	50世帯、125人	100世帯、250人	100世帯、250人
平日昼間人口	1000人	50人	125人	125人	50人	50人
地形	高層建物 緑地少ない	1 軒屋 低層アパート	食料用田畑 山間部	漁港、市場 緑おい	1件屋 低層アパート	1件屋 低層アパート
妊婦	2人	1人	1人	1人	1人	1人
幼児	12人	6人	3人	3人	6人	6人
小学生	12人	6人	3人	3人	6人	6人
中学生	6人	3人	3人	3人	3人	3人
高校生	3人	2人	1人	1人	2人	1人
大学生生	1人	1人	1人	1人	1人	1人
職業人	434人	161人	90人	90人	141人	141人
家事専業	100人	50人	10人	10人	50人	50人
外国人	3世帯10人	3世帯10人	1世帯3人	1世帯3人	10世帯30人	3世帯10人
要支援者	10世帯20人	5世帯10人	5世帯10人	5世帯10人	5世帯10人	20世帯30人

高層タイプのアパート・ホテル、商店や公共施設が多く緑地少ない。妊婦、幼児、外国人、高齢者を含む住民は200世帯(500人)、一時滞在はホテル病院入院100人とホテルお客20人。

UPZ外



(UPZ圏内)
漁村部

高気密の1軒屋が中心、妊婦、幼児、外国人、高齢者を含む住民は50世帯、125人、ほとんどが漁業と観光業を営む。観光宿泊客はなし。

UPZ内



UPZ外



広域避難所



100km

(UPZ圏内)
外国人多数

高気密の1軒屋が中心、妊婦、幼児、多くの外国人、高齢者を含む住民は100世帯、250人、ほとんどが徒歩通学かマイカー通勤

UPZ内



UPZ外



広域避難所



100km

10-3. ケースモデル

- ・ ケースモデルは、AL11(冷却材漏洩)⇒SE11(ECCS作動)⇒GE11(炉心注水停止)⇒〈時間設定1〉⇒炉心損傷(GE28)⇒建屋内放出(1PD、GE04)⇒環境放出(2PD、GE02)⇒〈時間設定2〉⇒放出停止(GE02、GE04リセット)の時間モデル等とする
- ・ 〈時間設定1〉は代替注水設備が機能開始したとしてその時間を設定し、〈時間設定2〉は故障した代替注水設備が復帰したものととして統一的に24hrを与える。

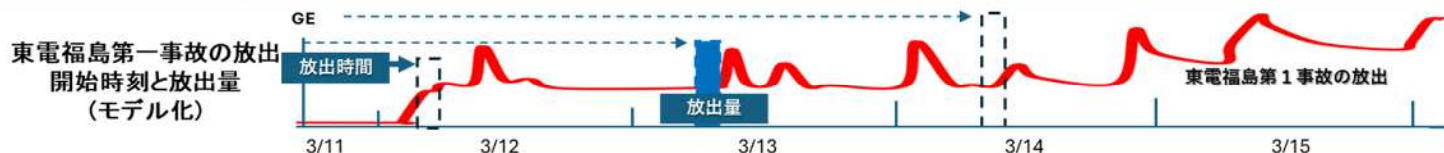
区分	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4	ケース5	ケース6	ケース7	ケース8	ケース9	ケース10	ケース11	ケース12
	早期放出	中期放出	遅延放出	多量放出	中量放出	少量放出	台風警報	津波警報	低燃警報	高温警報	感染蔓延	停電
GE建屋放出	4hr後	28hr後	52hr後	28hr後	28hr後	28hr後	28hr後	28hr後	28hr後	28hr後	28hr後	28hr後
GE環境放出	6hr後	34hr後	60hr後	34hr後	34hr後	34hr後	34hr後	34hr後	34hr後	34hr後	34hr後	34hr後
GE後停止	24hr後	58hr後	84hr後	58hr後	58hr後	58hr後	58hr後	58hr後	58hr後	58hr後	58hr後	58hr後
放出量	1E+17 Bq	1E+17 Bq	1E+17 Bq	1E+18 Bq	1E+17 Bq	1E+16 Bq	1E+17 Bq	1E+17 Bq	1E+17 Bq	1E+17 Bq	1E+17 Bq	1E+17 Bq
組成	キセノン133(HL:3.2日)が99%、ヨウ素131(HL:8.1日)が0.9%、セシウム137(HL:30年)が0.1%											
放出	1hr継続のパルス放出(東電福島事故参照)											
放出高さ	200m(東電福島事故参照)											
風向	16方位均等(放出ソースタームを1/16にする)											
形状	99%が線状のクラウドシャイン用高層バフ、1%が吸入摂取用の低層バフ											
風速	1m/s、屋内は希ガスのサブマージョン											
降雨 ホットスポット	放出ソースタームの粒子状分〇%Bq											
海洋放出	0.9%が経口摂取用の海洋及び0.1%が飲料水源用											
注意警報	—	—	—	—	—	—	暴風雨	津波	異常低温	根中症	感染	停電情報

311特別セミナー計画 R14

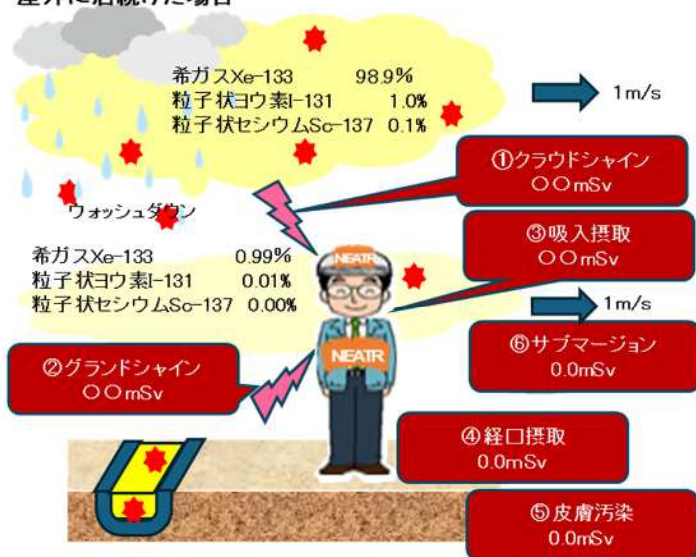
1

ケース1: 早期放出

原子力緊急事態宣言後2時間で炉心損傷に至り、その後5時間で建屋内放出、10時間後で環境放出の可能性。放出量は緊急時モニタリングで20マイクロシーベルト/hを超えない見通し。



屋外に居続けた場合



必要換気量を確保した場合



換気を止めた場合



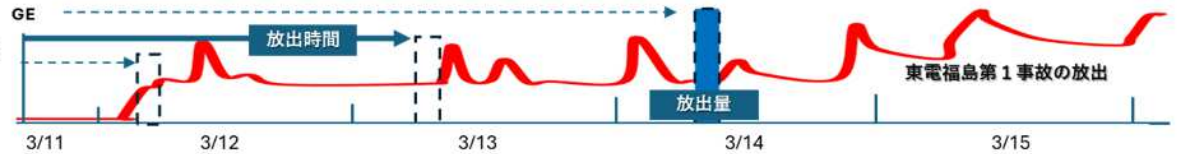
避難時健康リスク		
関連死リスク	心理的リスク	感染リスク
〇〇hrl	〇〇hrl	〇〇hrl

屋内退避時健康リスク				
環境悪化リスク	心理的リスク	感染リスク	高温リスク	低温リスク
〇〇hrl	〇〇hrl	〇〇hrl	〇〇hrl	〇〇hrl

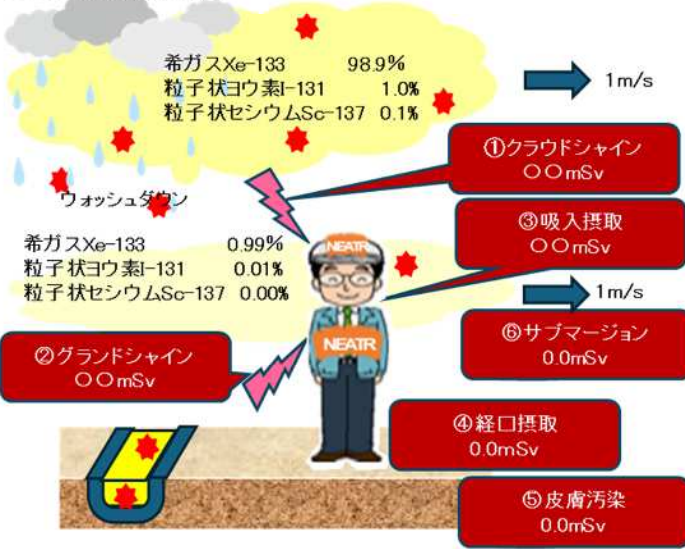
ケース4:大量放出

原子力緊急事態宣言後20時間で炉心損傷に至り、その後6時間で建屋内放出、12時間後で環境放出の可能性。放出量は緊急時モニタリングで20マイクロシーベルト/hを超える見通し

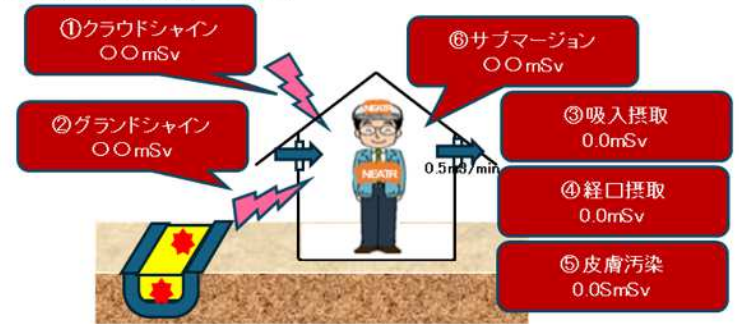
東電福島第一事故の放出
開始時刻と放出量
(モデル化)



屋外に居続けた場合



必要換気量を確保した場合



換気を止めた場合



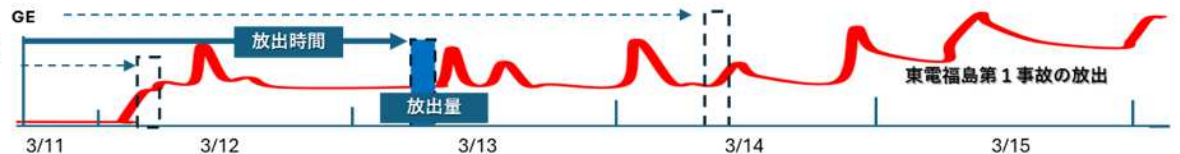
避難時健康リスク		
関連死リスク	心理的リスク	感染リスク
〇〇hrl	〇〇hrl	〇〇hrl

屋内退避時健康リスク				
環境悪化リスク	心理的リスク	感染リスク	高温リスク	低温リスク
〇〇hrl	〇〇hrl	〇〇hrl	〇〇hrl	〇〇hrl

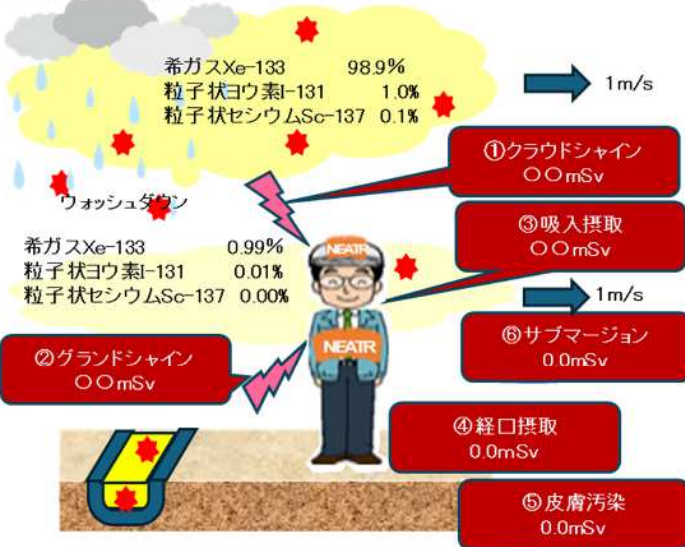
ケース9:寒波下

原子力緊急事態宣言後20時間で炉心損傷に至り、その後6時間で建屋内放出、12時間後で環境放出の可能性。放出量は緊急時モニタリングで20マイクロシーベルト/hを超えない見通し、現在、低温注意報が出されており、今週一杯同じような状況が続く見込み。

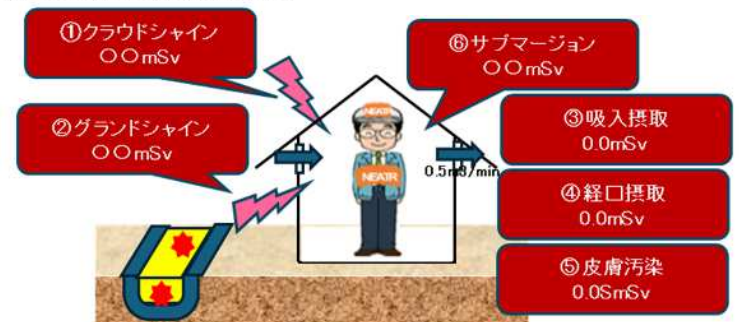
東電福島第一事故の放出
開始時刻と放出量
(モデル化)



屋外に居続けた場合



必要換気量を確保した場合



換気を止めた場合



避難時健康リスク		
関連死リスク	心理的リスク	感染リスク
〇〇hrl	〇〇hrl	〇〇hrl

屋内退避時健康リスク				
環境悪化リスク	心理的リスク	感染リスク	高温リスク	低温リスク
〇〇hrl	〇〇hrl	〇〇hrl	〇〇hrl	〇〇hrl